



靈験あらたかな千手観音様の手に、
なぜ人の首が握られているのか...

相良寺

木造千手観音坐像としては 日本最大級を誇る



吾平山相良寺(こへいざんあいらじ)は、天台宗総本山比叡山延暦寺の末寺で宗祖伝教大師最澄上人が弘仁5年(814)、今から約1200年前に開基されたと伝えられるお寺。山鹿市菊鹿町相良地区にある。元号は変わるが、前項の「松尾神社」創立と、数年しか変わらないというのも興味深い。

このお寺は、子授けや安産の他、さまざまなお利益に靈験あらたかとされ、多くの参拝者が訪れる。ご本尊の千手観音は、約500年前の永正14年(1517)に作られたもの。木彫りの千手観音坐像としては日本最大級を誇る。近づくにつれて



相良観音

この首の人物は緒方三郎惟栄(おがたさぶろうこれよし)という豊後国の武将で、源平合戦期(平安時代末期)の源氏方であった。当時、平家方であった菊池一族6代目の菊池隆直(きくちたかなお)が相良の地に逃れて籠った際、緒方ら源氏方の武将によって相良寺の本堂などが焼き討ちにあった。その時、観音様は、カズラに飛び移って難を



人の首を持つ千手観音

迫力がある。躰には、薬の器を持つ2本の手の他に40本の手がある。その中の1本(向かって左下)には、人の首を持っているのを見ることが出来る。

逃れた。またカズラに姿を変え、馬の脚に葛を絡ませ、緒方三郎を落馬させて討ち取らせたという伝説が残る。近くにある国指定特別天然記念物「相良のアイラトビカズラ」の名の由来ともなっている。

本堂での拝観の折には、源平合戦の舞台ともなった相良寺をぜひ想像してもらいたい。討ち取られた緒方三郎の首が、まさに歴史的出来事の象徴ともいえる。また、本堂内には、他にも由緒ある宝物(ほうもつ)が並べられており、見応えがある。



本堂内

中でも木板に彫られた不動明王は、南北朝時代の菊池一族

15代目の菊池武光公が、出陣の際に携帯していたと伝えられている。武勇に名を馳せ、九州を平定した武光公の守護神を目前にすることが出来る。

参拝後は、参道周辺のお土産店で、手作りの団子や饅頭を買って帰るのが定番。その中の一つである「相良茶屋」のご主人は、地元歴史に詳しく、訪ねるといろいろと教えてくれる。

また、菊鹿ワイナリー(松尾神社)の章参照)も最近できた人気スポット。菊鹿町は歴史文化だけでなく、おいしいものにも出会える地域である。



参道周辺にはお土産店が並ぶ

山鹿和栗



西日本一の生産量を誇る郷土菓子
山鹿市は年間約700トンの収穫量がある栗の特産地。中でも菊鹿町相良地区は特に生産盛んな地域。相良寺参道周辺では、団子の中に入れて「栗だんご」が秋の名物となっている。

- 相良茶屋 0968-48-9066
- 泉水園 0968-48-9725

アイラトビカズラ



熊本県内唯一の特別天然記念物
菊鹿ワイナリーのすぐ東側にある「相良のアイラトビカズラ」は、常緑のマメ科の植物で、樹齢1000年と推定される古木。毎年5月頃、暗い紅紫色の大きな花が、ブドウの房のように垂れ下がって咲く。(現在養生中)

PICK UP!

「みささぎさん」と 地元で呼ばれる「吾平山陵」

相良地区には、地元で「みささぎさん」と呼ばれ信仰を集めている地がある。「みささぎ」とは「陵」のことで、天皇や皇后などのお墓という意味。初代神武天皇の父親にあたる鷲鷲草葺不合尊(うがやふきあへすのみこと)の御陵と伝えられている。

一般的には、鹿兒島にある「吾平山陵(あいらさんりょう)」が知られ、宮内庁により治定されているが、地元の人にとっては、ここも御陵として大切に守られている。



天の岩戸岩陰遺跡
縄文時代の土器や人骨等が発見された遺跡。地元では「天の岩戸」と呼ばれ、聖なる地として信仰を集めている。
こちらも神秘★